

(1) タイトル

読みに困難を感じている児童のデイジー教科書を使用した指導

(2) 事例の対象となる児童・生徒

本事例の対象は、小学校の通常学級または特別支援学級に在籍する児童である。知的に発達の遅れはないものの、読みに困難を生じている児童である。教科書や配られたプリント教材、テストの文章が読めないために、周りの児童から理解されない、または自尊心が低くなってしまっていた児童である。このような児童に印刷物である教科書ではない方法でアプローチしていくことが重要であると考えた。

(3) 使用する機器（支援機器）の名称と特長

① 支援機器の名称

iPad

「Voice of Daisy」

Windows PC

「EasyReader Express」

② 特長

教科書のハイライトされた部分を読み上げる。

速度や大きさを調節できる。

教科書の挿絵や図、索引も読み上げていることから、通常の教科書と同じように使用できる。

(4) 使用した機器を選定した理由

デイジー教科書は、日本障害者リハビリテーション協会で作成しているデジタル教科書である。小中学校の教科書に対応して作ってあること、フォントを大きくする、色を変えることができる、読む速さや音量を変えることができるなど、授業に合わせて視覚的にも聴覚的にも支援できる利点がある。また、登録すれば簡単にダウンロードできること、自宅や学校のPCを利用することができることなど利便性が高い。

(5) 選定のプロセス

上を参照

(6) 個別の指導計画と個別の教育支援計画

個別の指導計画は、全教科の「指導の工夫と配慮事項」にデイジー教科書の使用を記載する。また、PC環境の構築、個人のiPadの使用を記載する。また学習の状

況について記載する。

個別の教育支援計画は、「学校での生活」の「必要な支援内容」の項目に、関連する学習状況を記載する。

個々の児童生徒の支援内容をデータベースに掲載して、関係教員がいつでも確認できるようにする。

(7) 指導の内容

- ・近隣の小中学校の特別支援学級担任者会でデジ教科書を紹介
自校では、全職員に登録のしかた、ダウンロードのしかた、実際にタブレットを操作してもらおう。
- ・デジ教科書の使用法
通常学級の児童を個別に取り出して指導をする。授業時間や朝の時間を利用した。特別支援学級の児童に特別支援学級にて指導する。主に国語と社会で利用した。
自宅にて宿題の国語の音読で使用
自宅にて予習に使用 主に聞いて内容を理解することに使った。国語、社会、理科。

(8) 支援機器の使用効果あるいは、指導の効果と支援機器の評価

デジ教科書の良さは、読む部分を抽出して提示すること、フォントの大きさをアレンジすることができること、背景色、ハイライトの色を変えることができること、漢字にルビをつけることができることにより視覚的な支援ができることである。

また、音声でガイドしてくれること、音声のスピードを調整することができることにより聴覚的な支援も受けることができることである。それにより、読みを促進することができ、理解力が向上した。

更に誰かに読み上げてもらうのではなく、自分で速さや大きさを調節して読むことで、もう一度読み返したい場所に簡単に戻ることができる。また、他人を気にしないで自由に操作できる。

以上から自分でやればできるという自己肯定感の向上にもつながった。

(9) まとめと今後の課題

通常学級の中でデジ教科書を使用する方法については今後事例を積み重ねていき、検討する必要がある。更に、タブレットや PC を使用することが通常学級の中で当たり前になって、どの子どもも「できる、わかった」を実感できるような物理的な環境を整えていく必要がある。